
警視総監の息子（予定）

水守中也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

警視総監の息子（予定）

【コード】

N1950J

【作者名】

水守中也

【あらすじ】

彼の名は、城戸白斗。父親は警視庁の刑事である。

もし父が警視総監になったら、彼は警視総監の息子となる。

警視総監の息子、いい響きだ。

その名に負けぬよう、彼は今日も難題に挑む。

(前書き)

身近にある自販機を見て思いついた話です。

彼の父親は、警視庁の刑事である。いわゆるノンキャリアというものらしくて、給料はよくない。それは息子である彼にもしわ寄せが来るわけだが、実態はどうであれ、刑事の息子、というのはいいものだ。

城戸 白斗^{はくと}は、ひとりほくそ笑む。

ライフラインが切断された密室の山荘で行われる殺人事件。そこにたまたま居合わせた一般人が鮮やかに事件を解決する。その人物、実は警視庁で知る人ぞ知る敏腕刑事（かどつかは知らんけど）の息子だった

なんて、そんな来るべき時に備えて、今日も白斗は事件を解決する。

中学から高校に変わって一番驚いたのは、校内にジュースの自販機があることだった。公立中学校にはそんなものはなく、原則買い食いも禁止。全生徒が、交通機関を利用するまでもなく徒歩で登校するので、財布を持ち歩くこともなかった。三月から四月。たった一か月たらずで大きな変化である。

学校で水以外の甘い物が飲めるとは、なんたる素晴らしいことか。中学では、せいぜいポカリスエツ茶のみだったのに。

しかもこの自販機、一本どれも80円と安い。お小遣い少ない白斗にとっては、ありがたい。しかしこれが問題を引き起こすことがある。

お釣り不足、十円玉切れである。

ほとんどの人間が百円玉を使う。仮に十人中、七人としよう。五十円玉と十円玉を併用する人間が二人、全部十円玉を使う奇特な人間が一人とする。その場合、百円玉を使う人間、七人分のおつり2

0円×七回で、140円のマイナス。一方、併用タイプ二人で、30円×二回で60円。全部十円玉で払うと80円で……

あ、足りちゃった。

ま、まあともかく、この絶妙な関係が崩れると、お釣り不足が発生して、ジュースを買えなくなるといふ問題が多発する。お釣り20円は足りないから、飲み物飲ませると言いたいときもある。

とまあ前置きが長くなったが、自販機の前でたたずむ男子生徒。彼もまた、この問題の被害者に違いない。白斗は、そう推理した。

「やあ、有吉、その様子だとジュースが買えなくって、困っているようだな」

「白斗か。ほんと、やになるよなー、これ」

うしつ。推理的中。俺天才！

白斗は、陰でこぶしを握った。

だが推理するだけでは名探偵とは言えない。難事件を解決するまでが名探偵なのだ。そして白斗には、それができた。

「仕方ないな。俺が代わりに買ってやるうか」

「だから、釣銭切れだって」

「問題ない。たまたま、十円玉が8枚あるからな。けれどおごる気はないぞ。代わりにお前から百円もらう、それでいいならな」

「ああ、20円くらいならいいよ」

「OK。交渉成立だな」

こうして、有吉は、無事乳酸菌飲料を購入し、ほくほく顔で去って行った。

ふつ。計算通りだ。

たまたま十円玉を8枚持っている、というのは嘘だ。こんなこともあろうかと、白斗は十円玉を大量に持ち歩いているのだ（重いしかさばるけど）。

つまりこうして自販機の前で立っているだけで、全校生徒に感謝

され、差額の20円も手に入るのだ。二十円を侮ることなかれ。全校生徒500人から徴収できれば、一万円だ。天才は金もつけもできるのだよ。はっはっはっ。

「あれ？」

白斗が、釣銭切れのランプが消えていることに気付いたのは、見知らぬ女子生徒が百円を入れてなんなくジュースを購入したときだった。

(後書き)

もっとミステリー風にしようかと思ったのですが……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1950j/>

警視總監の息子（予定）

2011年2月1日13時13分発行